

北海道＝実り豊かな大地は ウソだった？

梅雨の季節でも人気の旅行先といえば、北海道。

梅雨がなく涼しい気候はもちろん、人気の理由はいろいろあります。

では、ひとつ質問です。

北海道と聞いて あなたがイメージするものは何ですか？

イクラやウニなど海産物？

コクのある生クリームやチーズなどの乳製品？

少し前なら、そだねーともぐもぐタイム、

銅メダルで話題になった日本女子カーリング？

そして、六花亭やロイズのチョコレート？

北海道の定番お菓子といえば、北の恋人？？

じゃがいもや玉ねぎ、アスパラガスも美味しく

実り豊かな大地といえば北海道、ですよ…

しかしコレ、実は明治時代以降につくられていったイメージだと知っていましたか？

北海道といえば寒冷地。

つまり一般的には、
作物の栽培には向いていない土地なのです。

北海道といえば男爵やメークイン、
最近だと北あかりなどのじゃがいもも有名ですが、
これらは明治時代以降に栽培がはじまり、
生産量が拡大していきました。
(じゃがいもが北海道にはじめてやってきたのは1706年と言う説も)

乳製品も明治時代に、
北海道開拓使次官である黒田清隆がアメリカに行き、
アメリカ農務局長ホーレンス・ケプロンを
開拓使顧問に招聘し、

そのケプロンから農業指導の依頼を受けた
エドウィン・ダンが、
数等の牛や羊と共に北海道にやってきた結果、
本格的にはじまったとされています。

日本一の生産量を誇る小麦の栽培も、
ゆめぴりかやななつぼしなど北海道産の米栽培も、
生産量が増えてきたのは昭和から平成にかけてです。

ですから北海道は今のような豊かな大地というよりも
寒冷で不毛な大地であった可能性のほうが高いのです。

なぜこの地に私たちの祖先は文化を築いたのか？

約2万2千年前の後期旧石器時代にはすでに、
私たちの祖先は北海道にいたことが
遺跡によりわかっておりますし、
たとえばアイヌ民族も文化を築いていきます。

寒冷で不毛な大地なのに、どのように生活をしたのか？

人間にとっての農作物は豊かではなくとも、
山に入れば木の実がありますし、クマやシカなど、
食料としての動物たちは多く生存しています。

サケなどの魚も、そうですね。
アイヌ料理を語る時、サケを使った保存食
「ルイベ」を外すことはできません。

また、アイヌ民族の「イオマンテ」を知ると、
クマの毛皮なども神からの贈りものと
考えられていたことは明らかです。

食べるためだけではなく、
寒さを凌ぐための衣服としても、
狩猟していたことがわかります。

ということはつまり、

狩猟採集の生活には適していた、
とはいえるのかもしれませんが。

さらに寒冷地であるシベリアのほうが 北海道よりも過ごしやすい??

約2万年前まで北海道に住んでいたとされる、
シベリアからやってきた大型動物といえば、なんでしょう？

たとえば、マンモスですね。
約4万5千年前にはすでに北海道にいたとされています。

氷河時代の中でも最も寒かったとされる
約2万3千年前から2万年前の時期。

シベリアに遺跡がほとんどないと言われるこの時期、
生活が困難になってきた人類は
マンモスをはじめとする動物たちとともに
シベリアを南下してサハリン…樺太を經由し、
北海道にやってきたといわれています。

そして、その最も寒い時期が終わると、
再びシベリアに帰っていき、
一部はアラスカを越えていったとか。

つまりこれは、マンモスにとっては
氷河時代を終えた北海道は暖かすぎた、
ということであるとも推測できるのですが、

マンモスと共に人間もまた、
シベリアやアラスカへと移動したことは
無視できません。

シベリアと言えば 寒冷地＝不毛の大地なのに、なぜ？

一般的にシベリアといえば、雪が降っており、雪がやんでも見渡す限りの針葉樹林が広がり、赤茶けていて乾いた土に覆われて、寒々しく厳しい印象を与えてくれます。

しかしシベリアの真珠と言われるバイカル湖。

ここは日本人の祖先ではないかと言われるブリヤート人が住む場所としても有名ですが、実は世界屈指の生物多様性を持つ場所として、世界的に有名です。

チョウザメやオームリ、サケ科などの魚類、バイカルアザラシなど、約355属1334種が生息し、うち固有種は1017種とされています。

ガラパゴス諸島と並び、生物進化の博物館と呼ばれるバイカル湖。

冬になると湖の全面が1メートルの氷に覆われ、車も氷上を走ることができるほど、寒く、氷の世界です。

こんな寒冷の大地ゆえ、栄養素も乏しいのに…

いったいなぜ？

寒冷＝不毛という常識から自由にならないと 祖先たちの足跡を知ることはできません

北海道は実り豊かな大地で食べ物が美味しい。

特に今私たちが北海道に抱くイメージは、
明治時代以降につくられたものがほとんどです。

しかし一方で、狩猟採集の生活を営んできた
アイヌ民族の文化からは

やはり北海道は実り豊かな大地だったと
いえるのではないか、と思うのです。

そしてそれは、シベリアも同様です。
人が生活できないならば、
シベリアを通過しての人類大移動など、
あったはずはありません。

今回の北方ルートジャーニーでは、
2万年前にも人とともに生息していた、
ある哺乳類と会い（サンタクロースで有名な…）、
寒冷地を生きてきた祖先たちの歩みを辿ります。

その土地の旬をそのままいただき、
寒冷地ならではの料理を食べ、
祖先たちと同じ景色を眺める。

一緒に、体感しに行きましょう。

北方ルートジャーニーで向かう場所は？

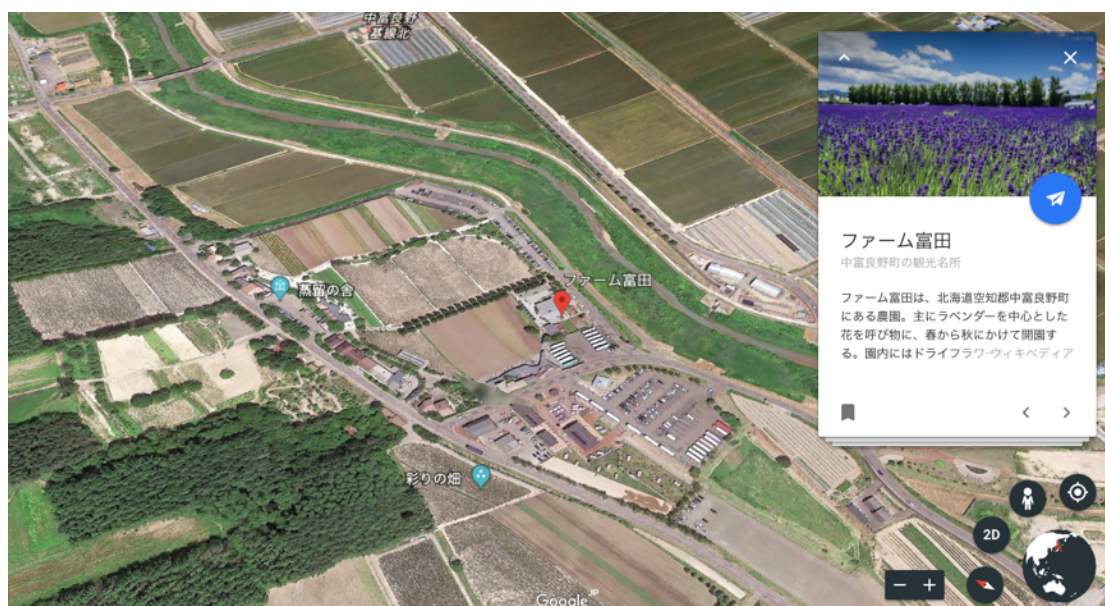
北方ルートは北海道の大地最北端、現在の稚内を到達点としています。

今回のグレートジャーニーでは札幌に集合し、アルファードという大きめのレンタカーを借りて、稚内までの往復800キロを移動します。

北海道に私たちの祖先が文化を築いたということは、寒冷地に住んでみようという何かがあったのではないかな？

そんなことを感じてみよう、そして日本人のルーツを感じてみよう、というのが今回のテーマです。

ですから今回の旅は富良野を経由し、旬であるラベンダー畑を眺めながら北上。



アイヌ文化の聖地であるカムイミンタラ、旭岳やトムラウシ山を右手に見ながら稚内に向けて進んでいきます。

時間が間に合えば鑑賞したいものが、ちょうど旬の花である「青いケシ」。



ここでは、祖先たちがやってきた2万年前にもいたであろう哺乳類にも触れます。

そして初日の最終目的地は、ノシャップ公園。

最北端とも言えるこの場所で夕日を眺め、初日を締めくくりたいと思います。

祖先たちもきっと眺め、一日の疲れを癒やしたであろう夕日を旅のメンバーと一緒に味わいたいですね。

夕食はロシア料理を検討中。
寒い土地にはその土地ならではの経験を活かした料理があります。

海を隔てて祖先たちがやってきた大地を想像し、その地の料理をいただきましょう。

2日目の朝は宗谷岬に行き、
日本海とオホーツク海を隔てる宗谷海峡の
40キロ向こうにある樺太、サハリンを望みます。

その後は日本海沿いオロロンラインを南下し、
留萌の旬、キタムラサキウニをいただきましょう。
(エゾバフンウニとの食べくらべ、
いくらを乗っけてもいいですね)



途中の景色は海の向こうに利尻富士、
そしてサロベツ原野。

見渡す限りの海と広大な大地。

2万2千年前にはすでに
生活していたとされる祖先たちが、
この地でどんな生活をしていたのか？

その大地の旬のものをいただいたあとは、
車のなかでディスカッションしてみたいと思います。

そのまま南下し、札幌駅の到着は18時→16時を予定。

気づいたことを共有し、
解散前に深められれば。

そして私たち自身のルーツに触れられればと思います。

北方ルートジャーニーを一人で経験すると？

通常、北方ルートジャーニーに参加するためには
グレートジャーニーのメンバーである必要があります。

そして参加費は1年で120万円からになります。

では、

ちょうど北海道の恵みが旬である時期に旅する
北方ルートジャーニー。

もしこれを一人で経験すると、
いくら必要になるでしょう？

新千歳空港で小さなレンタカーを借りて、
ここに書かれた同じルートを辿り、
稚内にホテルを取り、

ひとりで運転してごはんも手軽に済ませて、
となれば、

ガソリン代や高速道路料金を加味しても、
5万円もあれば十分です。

これに、札幌までの往復交通費が別途、
ですね。

では、北方ルートジャーニーへの参加費は？

北方ルートジャーニーは、
島田さんや僕、そして、

グレートジャーニー参加する
牧さんたちと一緒にいく体験の旅です。

車内での会話や食事での会話では
「そういう見方もあるのか」
という気づきが得られると好評です。

また北方ルートジャーニーが
他のツアー会社が企画する旅と異なるのは、

その土地のものを体験できるように、
日本人のルーツを体感できるように
プランニングしている、という点にあります。

例えば札幌から稚内に車で行くのに
なぜ富良野を経由するのか？

それはちょうど咲き始めるラベンダーを
鑑賞するためです。

なぜ牧場を訪れるのか？

それは年に1ヶ月しか咲かない青いケシ、



ブルーポピーを眺めるためです。



なぜオロロンラインを南下するのか？

それは年に2ヶ月しかとれない留萌の幸、
キタムラサキウニをいただくためです。

もちろんこれらは理由の一つに過ぎず、
大きなテーマは日本人のルーツを辿るです。

ですから、

アイヌ民族の聖地であるカムイミンタラを眺め、
2万年前にも祖先たちと共に生きていた動物に触れ、
北の玄関口である稚内に宿をとり、

宗谷岬からサハリンを望み、

オロロンラインの片手に広がる日本海を眺め、
なぜこの地に祖先たちがやってきたのか？
なぜ文化をつくりあげることができたのか？
を深めていきます。

もちろん、運転や食事処の選択は
僕が行いますので、

くつろいで旅を楽しむことが可能です。

本来、グレートジャーニーに参加するためには
年間で120万円が必要ですが、
今回の北方ルートジャーニーはスポット参加です。

ですから12ヶ月で割った1ヶ月分、
10万円にて、参加するメンバーを募ります。

10万円には参加費のほか、
30日の稚内宿泊費や食費（30日の昼食夕食、1日の朝食昼食）、
レンタカー費などを含んでいます。

含まれないのは、
集合解散場所である札幌までの往復交通費です。

(あとはお土産やおやつ、移動中やホテルでの飲み物でしょうか)

(昼食時や夕食時の飲み物、もちろんお酒もですが、参加費に含んでいます)

ひとりで行くほうがお得ではありますが、
ひとりで行くとは違った体験を約束できます。

参加は今すぐ[こちらをクリックし](#)、
お申し込みください。
(申込みフォームにジャンプします)

北方ルートジャーニーの概要をまとめてみました

【開催日時】

*6月30日（土）10時AM～7月1日（日）18時→16時

【集合・解散場所】

*札幌駅（詳しくは申込み後にお知らせします）

【主な行程】

*6月30日

札幌駅集合→富良野で昼食（ラベンダーを眺めながら）→美瑛経由旭川→内陸を北上し稚内→ノシャップ岬で夕日鑑賞→ホテル

*7月1日

ホテル→宗谷岬からサハリンを望む→オロロンラインを南下（利尻富士、サロベツ原野を眺めながら）→留萌で昼食（キタムラサキウニなど海の幸ほか、海産物が苦手なら食事処の名物をいただきます）→南下して札幌駅

往復およそ800キロを予定しています。

レンタカーはトヨタのアルファードを予定しており、参加メンバーにはゆったりくつろいでいただこうかと。

【参加費】

*10万円

【参加費に含むもの】

*6月30日の昼食と夕食

（富良野で名物ランチ・稚内ではロシア料理）

*6月30日の宿泊

（稚内・温泉付き）

*7月1日の朝食と昼食

(ただし朝食は希望者のみ／昼食は留萌でムラサキウニとバフンウニなど)

*レンタカー費

(ゆったりタイプのアルファードハイブリッドです)

*ガソリン代と高速料金

上記の費用をすべて含みます。

**札幌駅までの往復交通費は含みません。

**お土産や個人的なおやつ、車内での飲み物、
ホテルの部屋での飲み物などは含みません。

募集メンバーは2名のみです

なお、今回の北方ルートジャーニー、
募集メンバーは2名のみとなります。

レンタカーのゆったり乗車可能人数が
あと2名であることが、その理由です。

先着順で申し込みを締め切りますので、
この資料を読んでピンときたならば、

今すぐ[こちらをクリックし](#)、

お申し込みください。

(申込みフォームにジャンプします)

一緒に旅をするメンバーの声を紹介します

前回3月に開催した海のルート編、
石垣島ジャーニーの感想を紹介します。

* 島田さんの声

個人のルーツ探求から人類のルーツ探求へと歩みを進めた僕たち。

シーズン2の幕開けは南方ルートの地に実際に来たのでした。旅の計画をするだけで幸福を感じると高城剛さんは行ってましたが石垣島ジャーニーも2回のオンラインミーティングがあったので深まったように感じました。

事前準備として何をインストールしておくかによって旅は変わると思います。今回は2カ月と2度のオンラインミーティングでインストールしたものをもつてのジャーニー。

沖縄には毎年のように訪れていますが石垣島上陸は初めてです。

美しいビーチにサンセット、トロピカルフルーツで南国雰囲気を楽しむ、、、
といったものにはあまりならずそこはシーズン2になってもグレートジャーニー
でした。というか食ジャーニーでした（笑）食べまくり島巡りもなかなかよい
ですね。

次回は樺太ジャーニー。どんな美味しいものが食べられるか今から楽しみで
す（笑）

* 牧さんの声

初めての石垣島は、たくさん食べたというのが一番の思いで（笑）。

ドライブで島をめぐり、海の美しさや緑の青々しさにも見とれたのですが、
牛や豚の家畜の牧畜が盛んなのだと実感しました。

事前にオンラインミーティングでイノシシを食べていたようだという情報が確信に変わりました。普通に考えると、島なので魚を食べたと思いがちですがそうではない。白保の海岸で海にたわむれたのですが、サンゴ礁の海岸は、足の裏に刺さり歩きずらかった。

こうして、事前に話したことを、実際に体験してみてわかることが面白いなあと思いました。

次は北のルートですね。楽しみです。

*後藤さんの声

いつも仕事のことしか考えていないので、毎回ジャーニーのディスカッションは息抜きのように楽しませて頂いています。

僕はそもそも学校で全く勉強していなかったもので、歴史とかも全然知らなくて。

たまに恥ずかしい思いをするほど何も知らないのですが、その反動のようにディスカッションの前はけっこう真面目に資料集めをしていたりします。

今回の「飢え」に関しては八百屋の頃を少し思い出すような感じで、もちろん僕の方が全然マシですが、、生き延びるための行動はどの時代も変わらないのかもしれないなと思いました。

石垣島たのしみです！

*みずほっちの声

石垣島ジャーニーはグルメツアーの様相を呈していましたが、食ツアーになったからこそ思ったのは、先人のお陰で生きているということです。

好きなときに、好きなものを、好きなだけ食べられる幸せ。食べたっていいし、食べなくてもいい。生命の危機に怯えずに生きていられることへの幸せ。車という文明の力で、1日で島を一周できる幸せ。

実際に訪れた石垣島はのどかな光景が広がっていましたが、南から北に移動するためには小高い森を抜ける必要がある。となると、海沿いに北上したのかもかもしれません。

今回のルートは海沿いを左回りに移動しましたが、この海沿い左回りルートは自分でもそう考えていたので、実際に体験できたのはよかったです。

石垣島が思った以上にのんびりした空気感だったので、海を渡ってきた人には癒しになったのかもかもしれないと思った石垣島ジャーニーでした。

次回の北方ルートは、今回とはまた違った雰囲気になると思うので、それもまた面白そうですね！

P.S.

北海道に住んだことがない僕からすると、北海道といえば夏は涼しく、冬は寒い、極寒という印象。

作物が実り、海産物が豊かな大地、という印象も。

では、北海道よりも北に位置する、シベリアに対する印象は？

北は北極海に面しているから海は凍り、年中極寒で、不毛の大地？

およそ2万2千年前から2千年ほど、シベリアは過去にない寒さを記録したと言われています。

なぜ、わたしたちの祖先はわざわざシベリアを通り、

サハリンを経由して北海道にやってきたのか。

また一部の祖先たちはなぜ再びシベリアへと戻ったのか。

「ホモ・サピエンスはアフリカを出て世界へと拡散したとき、
現在の人間と同じ知力を持っていた。

わたしたちが思いつくことは当時の人たちも考えていただろう」

とは、国立科学博物館の篠田謙一さんの言葉です。
彼は石垣島白保で見つかった人骨のDNAを解析した人でもあります。

「わたしたちが思いつくことは当時の人たちも考えていただろう」

ということは、当時の人たちが思いつくことは、
私たちも考えることができる、ということです。

本当のところは確かめのない真実を体感しに、
札幌から北海道最北端の稚内まで往復800キロを、
一緒に旅しましょう。

車内で北方ルートや北海道、
シベリアに関するクイズ大会を開催し、
意外な事実を知りながら。

その土地の匂に触れ、匂を頂きながら。

贅沢な1泊2日、贅沢な大人の修学旅行になれば、幸いです。

P.P.S.

大切なことを書き忘れていました 申込みは6月24日（日）までです

最後になり恐縮です。
この案内は、

6月24日（日）までの申込期間とさせていただきます。

1泊2日のスケジュール確保、また
札幌までの交通手段を確保しなければならない人も
いるでしょうから。

車の関係で募集は2名のみですので、
申込期間を待たずして締め切ることもあります。

ですから、お申込みは今すぐどうぞ。

[こちらをクリック](#)しても、お申込みできます。
(申込みフォームにジャンプします)